



TAIYO KOKI

One machine, One answer

第38期

2022年1月1日 ▶ 2022年12月31日

BUSINESS REPORT

株式会社太陽工機

証券コード 6164

企業理念

私たちは、
先進的技術を駆使した
製品を創造し、
精密加工を通して
世界の製造業の発展に
貢献する

経営方針

1

内外の法令を遵守し、
フェアな企業活動に徹する

2

イノベーションを追求し、
最先端の技術力と提案力で
社会に貢献する

3

企業価値を高め、
顧客、従業員、株主、その他の
ステークホルダーに報いる

株主の皆様へ

To Our Shareholders

原材料高、部品調達難を克服し、 増収を達成いたしました。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年度の工作機械業界は、ロシア・ウクライナ情勢を契機とした資源価格の高騰と急激な円安進行により先行き不透明な状況が続いているものの、製造現場での人手不足を背景とした省人化ニーズによる設備投資需要は依然として高く、需要は高水準に継続する状況となりました。

当社の受注状況も、通期受注高は前期の約1.4倍となりました。当期においては、リアルでの展示会活動が活発化しました。本社工場においてオープンファクトリーを開催したほか、JIMTOF2022への出展を通して、当社製品の技術力をアピールするとともにお客様の設備投資ニーズを掘り起こし、受注の獲得につなげてまいりました。この結果、通期の受注計画は当初の100億円から上方修正し、120億円強で着地いたしました。また、売上高は計画通りの90億円を達成することができました。

当事業年度の受注高は12,089百万円(前期比36.8%増)となりました。売上高は9,041百万円(前期比35.2%増)となりました。利益面では、営業利益621百万円(前期比3.7%増)、経常利益624百万円(前期比4.3%減)、当期純利益440百万円(前期比0.2%減)となりました。

当期の配当につきましては、中間配当20円、期末配当20円の年間配当40円を実施することとなりました。

2023年度につきましては、日本工作機械工業会では、2023年の工作機械の年間受注額が1兆6,000億円になるとの見通しを示しており、半導体事業の強化や自動車の電動化に伴う設備投資の動きが活発になるとみて、堅調に推移する見通しです。

当社におきましても、受注については、堅調な設備投資需要により産業機械、工作機械、半導体関連企業向けは引き続き安定的な受注を見込んでいるほか、グリーンエネルギー産業向けの引合いも増加しており、今後もさらなる需要の獲得に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2023年3月

代表取締役社長 **渡辺 剛**

工作機械業界全体の伸び率を大きく上回るレベルで受注高が伸長した2022年度の太陽工機。ここでは渡辺社長への取材を通じ、中長期目標である2030年度売上高200億円達成に向けた、今後の主な経営戦略等についてご説明します。

生産の平準化に努めつつ、
より良い製品をつくり、
世界の製造業に
貢献してまいります。



Q1

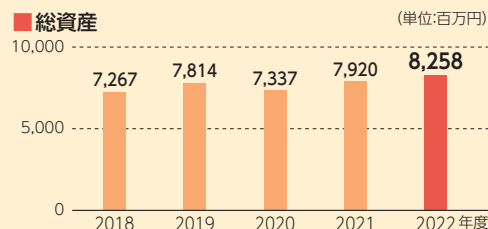
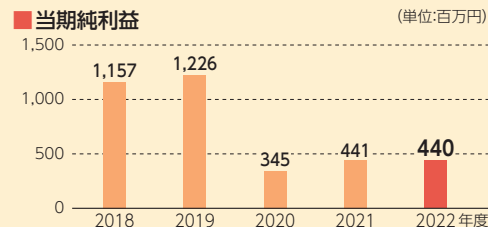
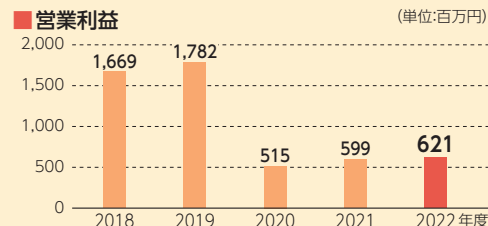
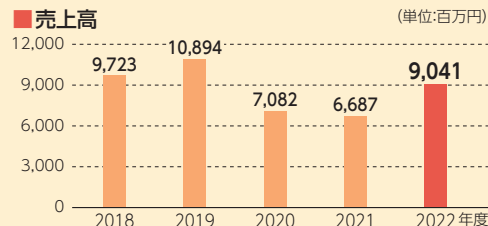
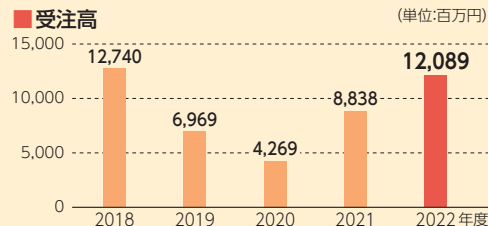
決算のポイントや据付地別・ユーザー業種別の状況など、2022年度の総括をお願いします。

A

受注状況としては工作機械業界全体の傾向(前年比14.2%増)と同様に、当社も1年間非常に強い受注の動きを見せました。結果として受注高は、2021年度比36.8%増の120億8,950万円となり、過去2番目に高い水準となりました。売上高に関しては、2020～2021年度にかけての売上トレンド(右掲グラフご参照)から一転して、2022年度は90億円に回帰しました。利益面に関しては原材料費高騰の中でしっかりと黒字を確保し、営業利益は2021年度比3.7%増となりました。

据付地別の状況では、年間を通し日本そして中国が非常に強い受注の動きを見せました。特に中国では2022年4Qでは過去最高

財務ハイライト



(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

トップインタビュー

の受注高となりました。欧州・米州においても平準的に受注が獲得できるよう、体制強化を図ってまいります。業種別の状況では、クリーンエネルギー分野に関連する軸受需要の拡大や、世界的な半導体需要の旺盛な動きを背景に、年度後半に軸受関連と半導体関連が大きく伸長しました。今後も両業種の拡大傾向は続いていくものと捉えています。

Q2

経済活動全般が正常さを取り戻しつつある中、2022年度の生産活動やサプライチェーンの状況はいかがでしたか。

A

率直に申し上げれば、やはり部品の入手難というのが2022年度を通じての大きな課題の1つとなっていました。先ほど原材料費高騰の話をしたましたが、それに加えて電子部品を中心とした部品の入手難、様々な業種が回復基調を示してきたことで、生産工程における人員不足などの要素がその時々で複合的に重なり、月当たりの生産高に差異が発生していました。現在も一部部品で入手難が継続していますが、このような非効率な生産状況を解消するため、既存ルート以外からの部品調達や代替品の使用、標準化された部品の使用を検討していく方針です。

Q3

2030年度売上高目標200億円達成に向けての製品戦略についてお聞かせください。

A

当社は創業以来、受注生産の立形研削盤を軸に企業成長を果たしてきました。それは、当社の

立形研削盤が非常に優れていて市場に認められてきた、ということでもあります。しかし、“太陽工機といえば立形研削盤”、というイメージがお客様へ浸透しており、円筒研削盤も作っているという印象が非常に薄くなっていました。このような状況を変えていくために、新たな顧客や新市場開拓に向けて当社が近年重視しているのが、立形研削盤の「Vertical Mate®シリーズ」や円筒研削盤「CGXシリーズ」に代表される、汎用研削盤の受注拡大への取り組みです。

受注生産のカスタムメイド機に比べて、汎用機は精度を維持しながらも価格メリットがあり、幅広い産業・規模のお客様に受け入れやすいエントリーモデルとなります。また当社にとっても、計画的にロット生産できる汎用機の特徴を活かして、納期の短縮/生産の平準化/部品調達コストの低減、というメリットがあります。今後に向けては、10年以上にわたってコンスタントに受注をいただいている「Vertical Mate®シリーズ」のような、先行で計画的に生産できる機種種の拡充を増やす計画です。

円筒研削盤は、世界の研削盤市場の中で約3割を占め、当社ブランドの拡大余地が大いに残されたボリュームゾーンと言えます。当社では「CGXシリーズ」に続き、2022年度に海外の円筒研削盤市場に切り込む製品として、大型の円筒複合研削盤「MGXシリーズ」を開発・投入しました。海外市場のさらなる開拓に向けて、世界113拠点・88カ国にネットワークを持つDMG森精機グループの一員という強みを活かした、DMG森精機グループ製品とのセット販売なども推進していきます。

なお当社では、生産能力の拡充と今後の成長を見越し

新本社工場の建設を予定しています。新本社工場は現本社工場の2倍の組立生産能力を持つことになり、これら一連の取り組みがさらに効果的に進むものと考えています。

Q4 人材確保・人的資本増強に向けた取り組みについて教えてください。

A 持続的な企業成長を果たしていく上で、人材確保・人的資本の増強は言うまでもなく重要なテーマの1つです。このような考えの下、当社では2年連続して初任給及び給与水準の引き上げを実施しました。これは、新卒採用・キャリア採用における優秀な人材の獲得だけでなく、既存社員のモチベーションとパフォーマンスの維持向上を目的とするものでもあります。こうした取り組みを通して生産性向上を推進するとともに、社員一人ひとりがより良い働き方のできる環境を整備し、持続的な企業価値の向上を目指していきたいと考えています。また教育面に関しては、これまでOJT主体であった点を見直し、今後はOFF-JTの仕組みづくりにも着手していく方針です。

Q5 2023年度の見通しなど、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 株主様やお客様からのご支援、社員の皆さんの頑張り、協力会社様のサポートなど多くのステークホルダーに支えられ、2022年度末の受注残高は、2021年度末比で約30億円増の78億円強まで積み上げることができました。これをもってスタートする2023年度では、ま

ずは売上高100億円台への回帰を目指します。利益面に関しては、2022年度に実施した価格改定の効果が見込まれるとともに、様々なコスト削減策や効率化策にも継続して努めることで利益を着実に確保し、営業利益率10.0%の達成を目指します。

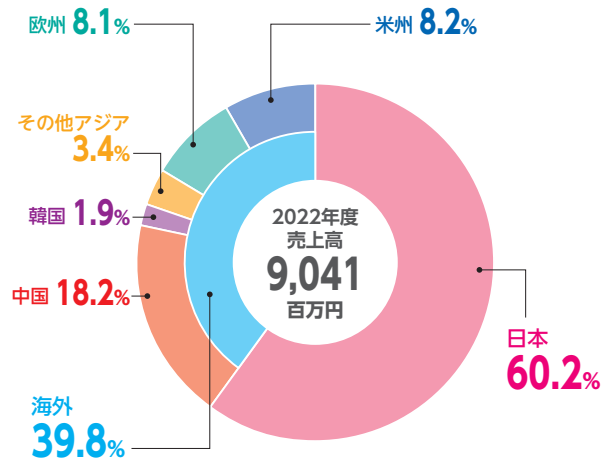
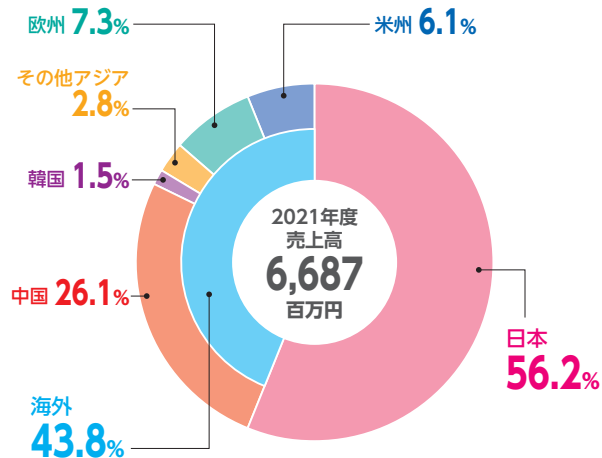
たとえどのような環境にあろうとも、より良い製品をつくり、世界の製造業に貢献していくことが第一であることに何ら変わりはありません。それによって得られた利益をしっかりと株主様へ還元し、持続的成長の道を株主様とともに歩むことができたらと考えております。

株主の皆様におかれましては、当社のさらなる成長にご期待いただき、今後とも末長くご支援を賜りますようお願い申し上げます。

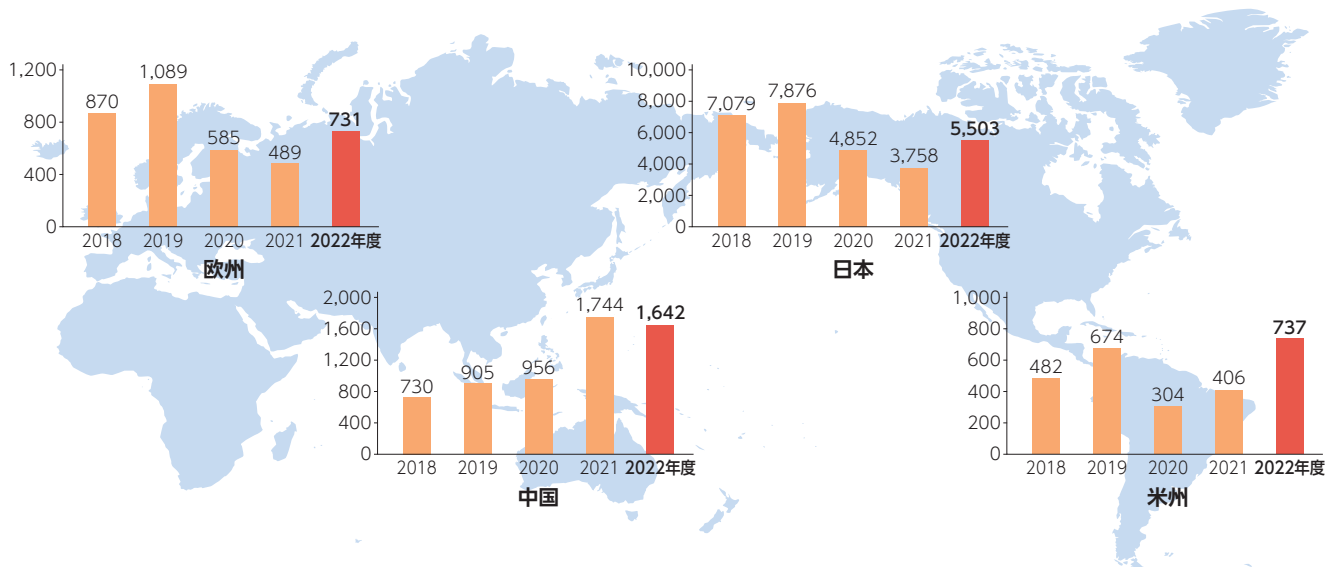


事業概況

● 地域別売上構成比

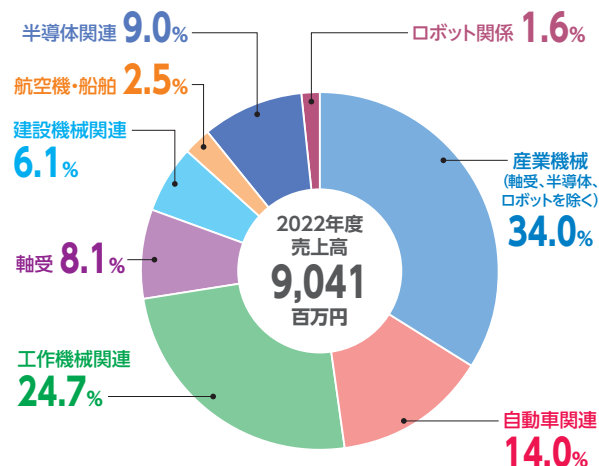
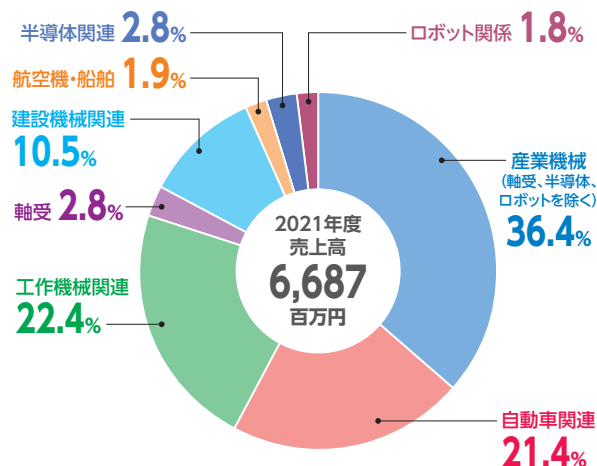


● 地域別売上高の推移 (単位:百万円)



(注) 金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

● 業種別売上構成比



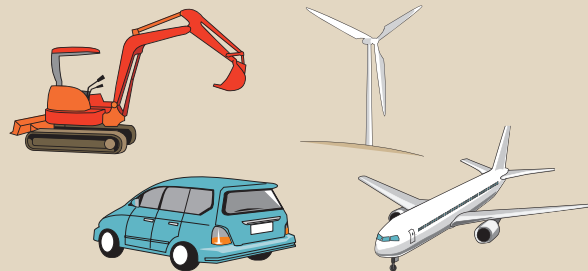
立形研削盤とは

立形研削盤は、部品を重力に対して垂直方向に回転させて加工する方式の研削盤で工作機械の一種です。当社がもつ独自技術により1989年に業界で初めて開発・製品化し、現在は主力製品として国内でトップシェアを占めています。加工する部品を垂直に設置するため、段取りが容易であるばかりか重力の影響を受けず加工精度に優れた特性をもち、工場内の省スペース化にも貢献します。



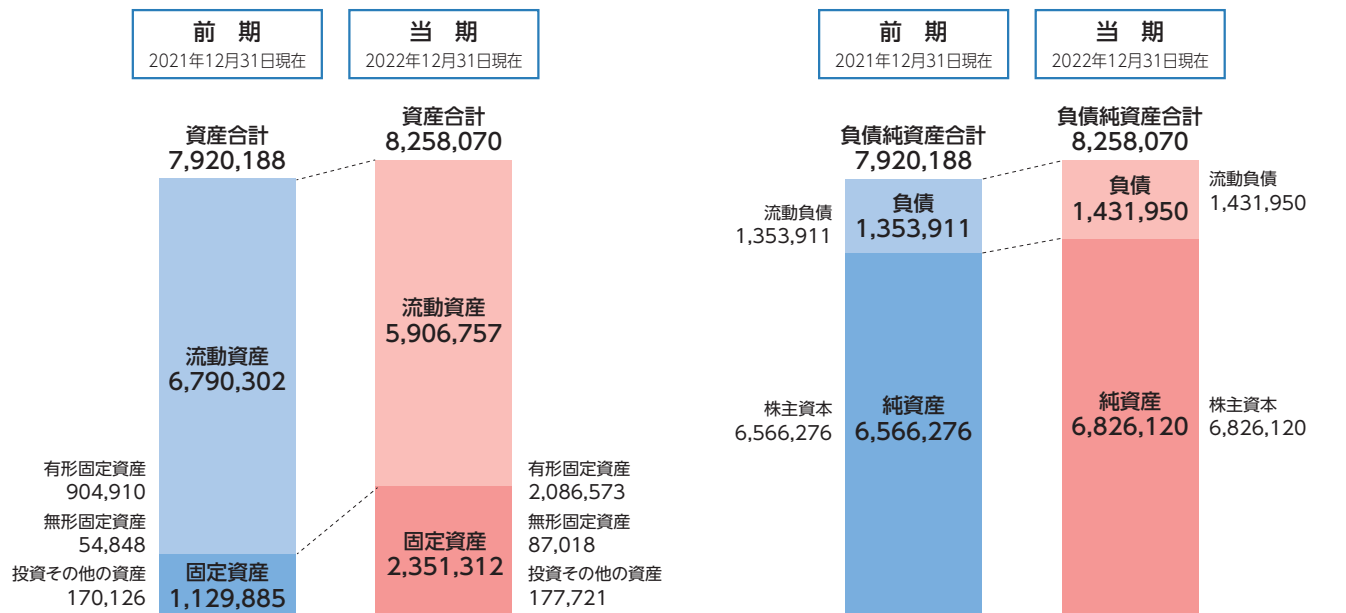
当社の研削盤が加工した製品は、
こんなところで使われています。

当社の研削盤は、自動車や航空機、建設機械におけるエンジン部品やシャフト、ベアリング、風力発電設備の変速機といった重要部品の加工に利用されています。0.001mm単位で要求される精度に応じて、低燃費の実現や振動の抑制などによる乗り心地、安全性、長寿命等品質の向上に重要な役割を果たしています。

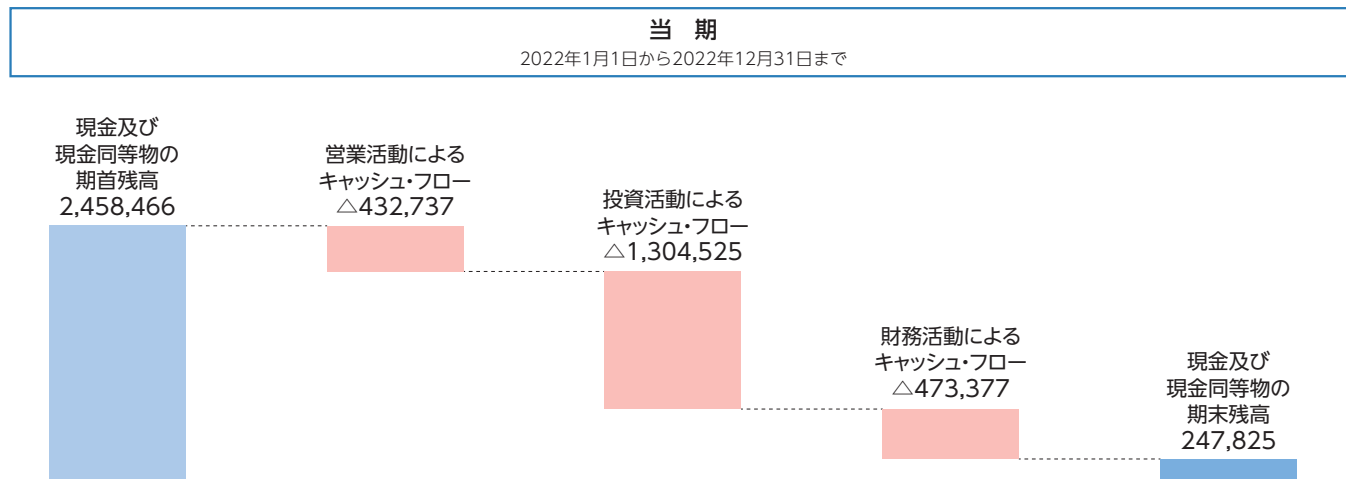


財務諸表

貸借対照表の概要 (単位:千円)



キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:千円)



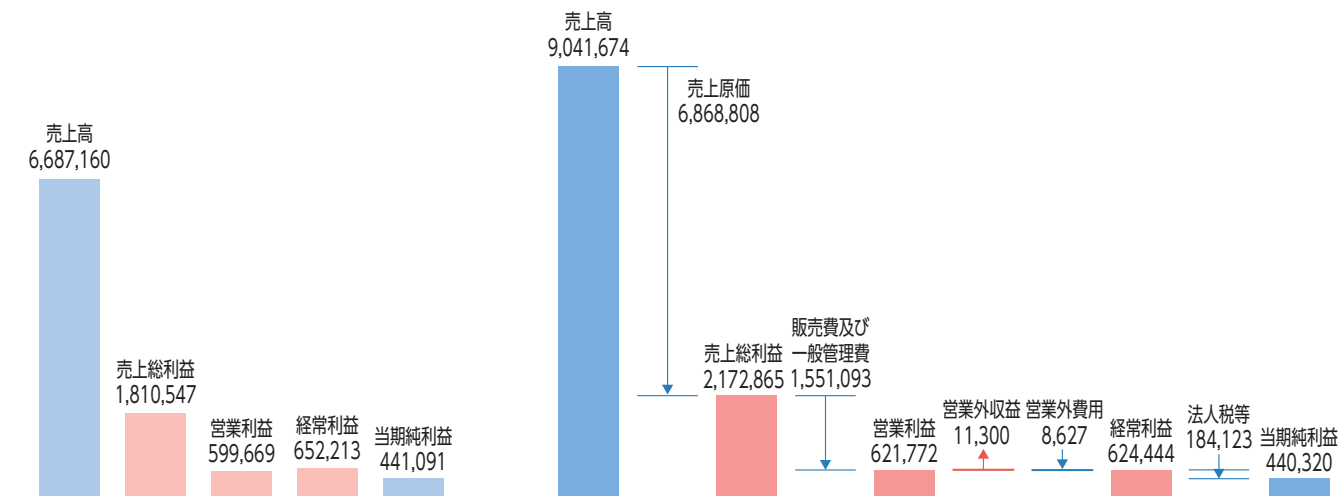
■ 損益計算書の概要 (単位:千円)

前 期

2021年1月1日から2021年12月31日まで

当 期

2022年1月1日から2022年12月31日まで



■ 株主資本等変動計算書 (単位:千円)

当 期 2022年1月1日から 2022年12月31日まで	株 主 資 本								純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当 期 首 残 高	700,328	387,828	145,166	532,994	5,452,608	5,452,608	△119,654	6,566,276	6,566,276
当 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当					△204,911	△204,911		△204,911	△204,911
自 己 株 式 の 処 分			913	913			23,521	24,434	24,434
当 期 純 利 益					440,320	440,320		440,320	440,320
当 期 変 動 額 合 計	—	—	913	913	235,409	235,409	23,521	259,843	259,843
当 期 末 残 高	700,328	387,828	146,079	533,907	5,688,017	5,688,017	△96,133	6,826,120	6,826,120

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

太陽工機Open Factory2022開催

2022年8月と9月に合計4日間、本社工場において太陽工機Open Factory2022を予約制にて開催いたしました。コロナ禍での行動制限が緩和されたことを受け、54社92名のお客様にお越しいただき、当社製品と技術力を直接アピールすることができました。

2023年は下期に開催を予定しております。今後も国内需要の掘り起こしをするとともに、お客様のニーズにタイムリーに応えられる営業活動を推進してまいります。



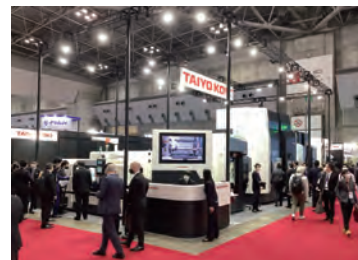
JIMTOF2022に出展

2022年11月8日～13日の6日間、東京ビッグサイトにて開催されたJIMTOF2022（第31回 日本国際工作機械見本市）に出展いたしました。JIMTOFは2年に1度開催され、アメリカのIMTS、欧州のEMO、中国のCIMTに並ぶ「世界4大工作機械見本市」の1つです。

JIMTOFとしては4年ぶりのリアル開催となり、当社からは新機種の円筒複合研削盤「MGX30/100」を始め、立形複合研削盤の「Vertical Mate 55」や「CVG-9」など、計5台を出展いたしました。

当社ブースには2018年を上回る人数のお客様にご来場いただき、当社製品を多くのお客様にアピールする絶好の場となりました。また会期中には目標を上回る受注を獲得することができました。

今後も国内外の展示会に積極的に出展し、当社製品のさらなる拡販を推し進めてまいります。



新潟アルビレックスBB、Phoenix Robotsの活動をサポート

2022年10月と11月に、ともに新潟県長岡市を拠点としているプロバスケットボールチーム「新潟アルビレックスBB」、学生ロボット競技団体「Phoenix Robots」の活動をサポートする契約を結びました。

両団体とも長岡地域を基盤として国内や世界の頂点を目指しており、当社はこのサポートを通じて、地域経済の発展・スポーツ振興・技術力の向上に貢献してまいります。



会社の概要 [2022年12月31日現在]

Corporate Data

会 社 名	株式会社太陽工機 (TAIYO KOKI CO., LTD.)
資 本 金	700,328,200円
設 立	1986年3月14日
主な事業内容	工作機械(各種研削盤)の開発・製造及び販売
従 業 員	249名
ホームページ	https://www.taiyokoki.com
本 社 所 在 地	新潟県長岡市西陵町221番35
関 連 会 社	DMG森精機株式会社

役 員	代表取締役社長	渡辺 剛
(2023年3月29日現在)	取締役副社長	棚橋 基裕
	取締役	森 雅彦
	取締役	柿沼 康弘
	取締役	多賀谷 実
	常勤監査役	小林 秋男
	監査役	間瀬 宏
	監査役	宮沢 啓嗣
	監査役	森岡 正樹

株式の状況 [2022年12月31日現在]

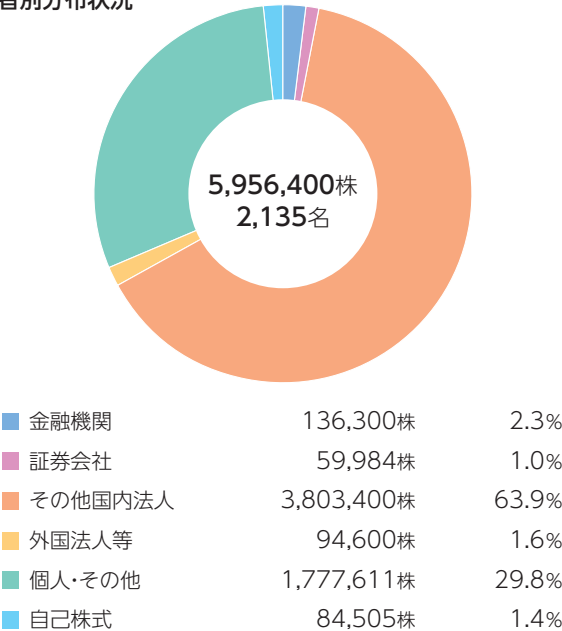
Stock Data

発行可能株式総数	18,000,000株
発行済株式の総数	5,956,400株
株 主 数	2,135名
大 株 主	

大株主(自己株式は除く)	持株数(株)	持株比率(%)
DMG森精機株式会社	2,988,000	50.88
株式会社渡辺	508,000	8.65
株式会社井高	216,000	3.67
太陽工機従業員持株会	191,384	3.25
渡辺 登	100,000	1.70
株式会社第四北越銀行	80,000	1.36
佐々木 嘉樹	70,000	1.19
MSIP CLIENT SECURITIES	69,300	1.18
神林 忠弘	69,200	1.17
渡辺 剛	44,800	0.76

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(84,505株)を除いて計算しております。

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金 受領株主確定日	12月31日
中間配当金 受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 TEL 0120-782-031（通話料無料）
同 連 絡 先	東京証券取引所スタンダード市場 電子公告により行う 公告掲載URL https://www.taiyokoki.com (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)
上場証券取引所	
公 告 の 方 法	



ネットワーク

<国内拠点>

本社・工場

〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35
TEL. 0258-42-8808 (代) FAX. 0258-42-8810

東部営業所

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-340 ウノビル7階
TEL. 048-658-8701 FAX. 048-658-8702

中部営業所

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-35-16
(DMG森精機株式会社内)
TEL. 052-563-1270 FAX. 052-563-1310

西部営業所

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階
TEL. 06-6378-7166 FAX. 06-6378-7167

<海外拠点>

中国（上海）

No.178 West Yindu Road, Songjiang District, Shanghai
201612, China
TEL. +86-21-6764-8876

アメリカ（シカゴ）

2400 Huntington Boulevard Hoffman Estates, Illinois 60192
TEL. +1-847-593-5400

ヨーロッパ

Gildemeisterstrasse 60, 33689 Bielefeld, Germany
TEL. +49-5205-74-2233

Webサイトのご紹介

<https://www.taiyokoki.com>



当社ではWebサイトにて当社の企業情報を随時開示しています。製品情報や当社の取り組み等を掲載しているほか、IR情報のページでは決算短信等がご覧いただけます。



関連サイト YouTubeチャンネルのご紹介



関連サイトとして、当社のYouTubeチャンネルを開設しております。当社の会社紹介、立形研削盤を始めとした各種研削盤の加工動画等がご覧いただけます。

